



# 第8回コミュニケーション推進チームにおける 委員ご指摘事項とその対応について

令和6年11月5日

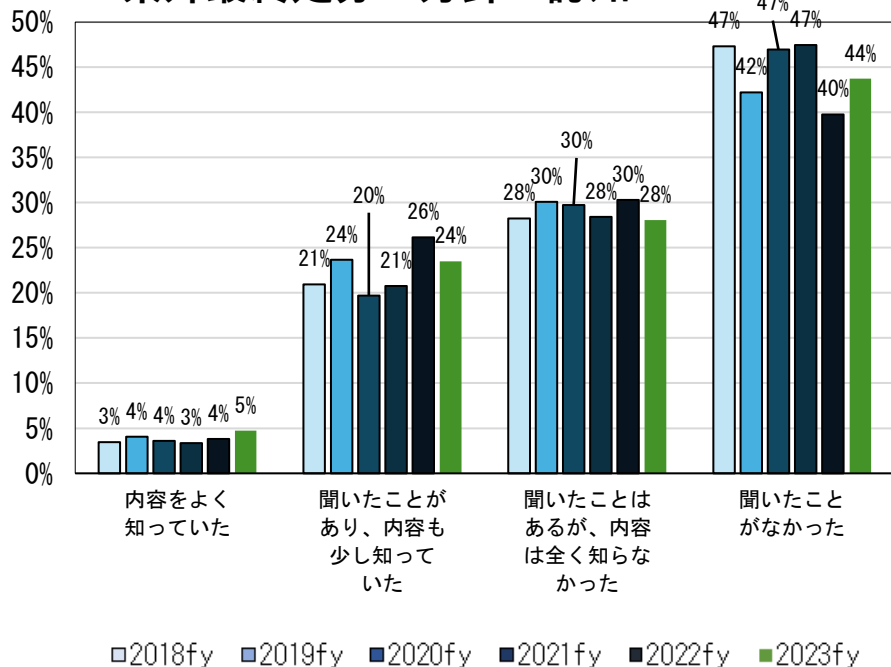
環境省

# 第8回コミュニケーション推進チームにおける委員からの主なご指摘事項とその対応

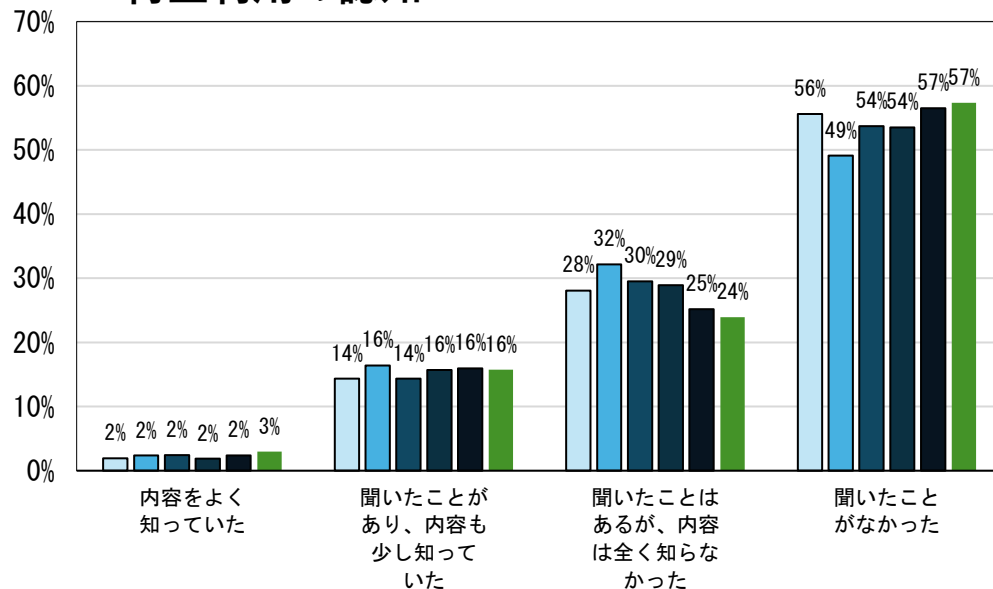
	ご指摘事項	環境省の回答
施策の 効果検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>● YouTuberとのコラボ企画の費用対効果、視聴者の属性分析などが出来ると良い。(保高委員)</li> <li>● 新聞でどのくらい報道されたか等、メディア露出の状況についても追跡調査すると良い。(大沼委員)</li> <li>● 他のいろいろな問題に関してどうアンケート調査をしてどのような傾向になっているかというものを調べて、今回の認知度が本当に下がっていないのはよい、と判定できる、比較する資料を提示してもらいたい。(高村座長、万福委員)</li> <li>● 福島の食に対するリスク認知について、買うのをためらうといった意見が非常に少なくなっているといった報道があった。そのような色々なトレンドがあると思うので、とらえやすいものをまとめていただきたい(高村座長)</li> <li>● 見学会を通じた理解醸成のプロセスについて詳細調査すると良い。(保高委員)</li> <li>● 費用対効果も踏まえつつ、効果のないものはやめていくという議論も必要(保高委員)</li> <li>● アンケート結果で再生利用の賛否における賛成・反対の逆転が近年で起こっている理由を分析すべき。(大沼委員)</li> <li>● アンケート結果についてはうのみにせず、他のアンケートなどとクロスチェックしながら、妥当性をゆっくり判断していくべき。(万福委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● YouTubeの活用において、費用対効果や属性分析を定量的に示すのは難しいが、27万回超の再生回数を記録し、コメント欄でも比較的好意的な評価をいただいているところ。発信者や発信内容を変えた結果、多くの方に視聴いただけたと思料。</li> <li>● 追跡調査を実施し、まずは今年度のWEBアンケートの結果報告の際に併せてお出しさせていただく。</li> <li>● それぞれの政策ごとの背景は異なるため、認知度の増減の直接の比較は難しく、引き続き参考となるものがないかを探していく。</li> <li>● トrendをとらえやすい調査についての例をまとめ、まずは今年度のWEBアンケートの結果報告の際に併せてお出しさせていただく。</li> <li>● 現地見学会のアンケートを整理・分析して対応していく。</li> <li>● ご指摘を踏まえ、効果検証を行ったうえで効果の薄い施策をやめることも検討する。</li> <li>● CTでのご助言をいただきながら分析を進めていく。</li> </ul>

- 2045年3月までの除去土壌等の県外最終処分の実現に向けて、全国的な理解・信頼醸成に係る段階として、認知・興味→理解→共感→（社会的）受容の4段階と想定。  
※ 2024年度の戦略目標までは、認知・興味、理解を中心に取り組んでいる。
- その上で、技術開発戦略における取組目標については、「全国民的な理解・信頼の醸成」及び「社会的受容性の段階的な拡大・深化」と記載。
- 全国的なWEB調査について、実施開始年度から今年度までの県外最終処分及び再生利用の年度で増減はあるものの、最終処分の方針や再生利用に係る認知度、関心度は、概ね横ばいで推移。

< 県外最終処分の方針の認知 >



< 再生利用の認知 >



## 第8回コミュニケーション推進チームにおける委員からの主なご指摘事項とその対応（p2の続き）

	ご指摘事項	環境省の回答
施策の 効果検証 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福島、その先の環境へツアーの参加者と、講義だけしか受けてない参加者との理解度を比較してほしい。(万福委員)</li> <li>● WEBアンケートの「(県外最終処分等について) 何で情報を得たか」の設問につき、YouTuberとの連携など環境省が新たに行っている施策を通じて知った人についても拾えるようにすべき。(竹田委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義のみ受けている学生についても理解度の変化を見られるよう検討する。</li> <li>● 今年度のWEBアンケートの設問に係る選択肢欄を修正する予定。</li> </ul>
2024年度 以降の理解 醸成活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 放射線に関する不安について、女性のほうが不安を持ちやすいという調査がある。女性にもご登壇いただいたほうが良い。(高村座長)</li> <li>● 理解醸成の取組に当たっての基本的な考え方の中に双方向的コミュニケーションを記載すべき。(大沼委員)</li> <li>● 環境省の行ってきた活動等について、福島県民の方々にも周知を図る努力をすべき。(高村座長、万福委員、保高委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ジェンダーバランスを意識していくことは非常に重要であり、今後留意していく。</li> <li>● ご指摘の点はまさに今年度のポイントとなるところ。しっかり位置付けながら進める。(5頁参照)</li> <li>● 今年度は福島県民の方々向けのツアーを実施予定。さらに、現地視察会の実施や中間貯蔵施設工事情報センター等の広報拠点を活用した情報発信等を通じて、福島県民の方々への周知も図っていく。</li> </ul>
地域WGと の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域WGの中で、誰が、どういうところで、コミュニケーションを取っていくのかを議論してほしい。(竹田委員)</li> <li>● ステークホルダー別のアプローチを整理すると良い(保高委員)</li> <li>● (第8回CT資料2に記載の)各ワーキングのスコープはすぐわかりやすい資料であり、戦略検討会のホームページの方にも同様に記載すべき。(万福委員)</li> <li>● 「対話」など地域WGとCTでその意味内容が異なる単語もあり、用語の使い方は意識すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域WGにおいて今後議論する予定であり、CTとも連携して整理していきたい。</li> <li>● ご指摘を踏まえ、戦略検討会のHPに掲載済。</li> <li>● 地域WGとも連携し、用語の使い方は意識していく。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 放射能濃度の100Bq/kgや8,000Bq/kgの情報は、数字の意味をわかりやすく表したかたちでまとめるべき。(高村座長、大沼委員、万福委員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 数字の意味をわかりやすく一般の方に説明できる資料をまとめていきたい。</li> </ul>

- 戦略目標年度（2024年度（令和6年度））を迎え、国際原子力機関（IAEA）からの国際的な助言・評価等も受けつつ、再生利用や最終処分の基準、最終処分の構造や必要面積等の技術的な検討が進展。
- こうした議論の進捗も踏まえつつ、最終処分や再生利用の必要性・安全性等について、国民の皆様に分かりやすい形で、科学的根拠に基づく透明性の高い情報発信に取り組んでいく。
- 県外最終処分や再生利用に係る理解醸成の取組として効果の高い現地視察の充実やより双方向のコミュニケーション、福島や環境再生に関心を持ってもらうための情報発信に取り組む。
- 理解醸成の対象として重要な者である、次世代・自治体やメディア等に対する施策を中心に展開していく。
- 国際的な情報発信については、国際原子力機関（IAEA）・環境省専門家会合における報告書のとりまとめを踏まえ、その成果に係る国内外での情報発信に取り組む。